



# 学校だより



7月号

令和8年6月30日  
横浜市立善部小学校  
校長 朝川 健太郎

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/zenbu/>

## 奇跡の環境

校長 朝川 健太郎

台風接近に梅雨空と雨の日が続いていますが、子どもたちは校舎内で工夫しながら遊んだり、梅雨の晴れ間には校庭で元気に活動したりする様子が見られます。5年生の御殿場宿泊体験学習は延期となってしまいましたが、4年生は6月24・25日に愛川体験学習を実施しました。愛川公園で自然を満喫し、木のスプーン作りや藍染めを体験するなど、充実した2日間を過ごしたようです。7月7・8日には6年生の日光修学旅行、7月16・17日には5年生の御殿場宿泊体験学習が予定されています。晴天に恵まれ、子どもたちにとって実りの多い体験になることを願っています。

さて、6月23日(水)に旭公会堂において「よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト 旭区審査会」が行われました。これは、横浜市内の児童生徒の国際意識を高め、国際社会で自分たちのできることを実践しようとする姿勢を育てる「よこはま子ども国際平和プログラム」の一環で、平成8年度より開催されています。善部小学校でも「国際平和のために自分がやりたいこと」をテーマに毎年6年生が取り組んでいます。今年度学校代表としてスピーチを行った児童の原稿の一部を紹介します。

「のどがかわいたらすぐに水が飲める。」

みなさんにとっては当たり前の毎日ですね。この当たり前は、本当に当たり前なのでしょうか。蛇口をひねって安全な水が飲めるのは、196か国のうち、たった9か国しかありません。世界には、安全な水を飲むことができない人が約22億人います。この数を聞いてどう思いますか。

私は、昨年までベトナムのハノイという所に住んでいました。ベトナムでは、水道水は飲めません。なぜなら体に良くない物質が含まれているからです。水道水を使う時は、手洗いうがいの際だけにするなど、気をつけながら生活してきました。もし水道水を飲んでしまうと、下痢、腹痛、激しい体調不良を引き起こします。飲み続けてしまうと命を落とす危険さえあります。私はベトナムに住んでいて水を飲むことの恐ろしさに気づきました。そして去年の夏、日本に帰ってきた私は衝撃を受けました。日本の学校の子は、みんな普通に水道水を飲んでいるではありませんか。ベトナムで水道水を飲めないのが当たり前だった私には、水道水を飲めるということを理解するのに時間がかかりました。安全に水道水が飲めることは、世界でも珍しく「奇跡の環境」と言われています。

そんな奇跡の環境を守り、広げるために私たちにできることは何でしょう。歯みがきをする時やシャワーを浴びる際に水を出しっぱなしにしていませんか。歯みがきの時の出しっぱなしを30秒短くすると2Lのペットボトル約3本分の節約、シャワーの時間を1分短くすると約6本分も節約できます。一人ひとりが水を大切にすることによって大きな力になります。その力がきれいな水を飲めずに困っている人達を救う第一歩になるかもしれません。まずは、自分ができることから始めてみませんか。

区審査会では、練習の成果を十分に発揮し、想いが伝わる素晴らしいスピーチを披露しました。水道から安全な水が飲めることは当たり前ではなく、「奇跡の環境」。その奇跡の環境は多くの人の努力で成り立っています。そうした努力に思いを馳せ、少しの水でも無駄にせず、「奇跡の環境」を守り続けることこそ、私たちにできる国際平和への第一歩なのかもしれません。